

雪

setsuen

冤



雪

兎

SHINJI YAMAGUCHI



前 戯

キヨトモバツケンカオル本……

なにやら魔法かまじないの呪文のようだが、今回の「清×巴×抜・剣×董本」の事である。

というわけでヨコシマ且つ愛ある「るろ剣」ファンの皆様こんにちは。

「雪冤」というのは「無実の罪をすすぎ清める」と

いう意味だ。別にわしが剣心の事を「冤罪だ」等と言う気は無いのだが、彼に恋する乙女たちにはこの言葉を当てはめたくなる。

さて、「やるぞ」と決めた筈の今回の本は、

いざ紙面におこそうとするとなかなか……思ったように描けなくて精神的にブレッシヤーの大きなテーマだった様だ（苦笑）。などと言って言い訳するつもりではないのだが、いつも通りさりと読んで見て戴きたい。それぞれのキャラが、また今以上に趣の深いものになれば嬉しく思う。

やまぐらしんじ









雪の結晶... 雪の結晶... 雪の結晶...

雪 冥



まだ陽も
明るい
ですから…

あつ

明良様…

いきません…

平気だよ

夕刻までは
誰もここには
戻って来ない

それに—

FOR EVER
ANDEVER...



心配するな

立派に
務めを終えて
帰ってくるから

な…

はい…

…っ

あっ

明良様…

は…





あっ

アッ

そこは...

アッ

どうしたの？

あ

そんな...

中まで...

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ...アッ...
は...あ

アッ

アッ...

アッ

アッ



ホラ...巴の好きな様に何でもしてあげるよ

巴の乱れるところ

も...
だめ...です...
そんなに動かしたら...

もっと見たい



あ！

巴のなかに...深く...

はっん
入っていくよ...わかる？

あ...あ...
は...い...

あ...あ...

愛しているよ...

はあっ

巴...

んっ...

ずっと
巴のなかに
居たい...

私の...



ひっ...

は...あっ

は...ん...

あーあー
あーあー

あー

あー

あー





華屋 VS やまぐち爆談！ 下世話対談1999①

やま「対談のシーズン到来！もうそんな季節なんですねえ～。てなワケでお相手して下さるのはレギュラーの華屋剣山氏です。今回清×巴×技・剣×薫本って事で相手にとって不足はない！てな感じでよろしく。…巴の笑顔に萎えてるかもしれないけど…」

はな「巴の笑顔に何の価値があるんじゃい。笑うのは1回でオッケー！そう学校で習わなかったかい!?しかし凄いカップリングですな。間違っって清×技とか（笑）。清里ってさ、生きてて無事巴と結婚したとしても間男とかに巴を寝取られそうと思わないか？かなりおまぬけだけど。」

やま「1回でオッケーてのは言ってるね。清里の話はありそで可愛そう度倍増！生きてても一番可哀想な人なのか！でも巴も剣心に、清里の事『ずっと好きだったから…』なんて結構ヒドイぞ（笑）。剣心若いのに可哀想ー！おおっ、一番可愛そうでないのは薫か？

はな「その意味薫は幸せじゃよー。かなり大事にしてもらってるじゃーん？健気なんだよね、薫さんは。巴は決して健気じゃないもん。腹の底でいるんな思惑が煮えたぎってるし（わしは本当に巴ファンか!?）。粗末に扱われてこそ魅力的なの、巴。そして清里はお粗末（笑）。

やま「ってゆーか、薄幸で報われないトコが魅力的なんじゃないの？明良君がお粗末だって！何が!?俺の中の明良君はかなり歪んじゃってますよ。もー巴フェチなんだよ（笑）。着物は自分で脱がさせても明良君が着付けするんだよ。たとえ異常な事されても巴は彼にぞっこんだから無抵抗なんじゃよ！…でも無反応かもしれないけど。

はな「異常な事って例えば巴を縛りあげて、それをサカナに晩酌とか？…不自由なモノが好きだけかも（笑）。現代版明良くんは巴のフィギュア使ってるよきつと。」

やま「ああっ！ソレいただき♥SEXすんじゃなくて晩酌のサカナなんだな。いいっ…。しかし、今回清×巴描いててすんごくやるせなくなつた。未来のない二人って何やらせても虚しいよ、やっぱ…（巴×技もねっ）」

はな「もう期間限定ですからな。ごく限られた時間に何があったかでっち上げ…いや想像するのは辛いよ。明良くんの情報が少ないので巴フェチとかにされてしまうのですね!?博士!!」

（P39に続く）



人を斬る度乾いてゆく
血を吸う度に枯れてゆく
—— 水が欲しい
俺が人でなくなる前に

A DISTANT
THUNDER

遠雷







温かい手の持ち主は
心の冷たい人なんだ
そうですよ…

少しは

暖まり
ましたか？

君は…

冷たい人なんか
じゃない…

それなら

俺の方が…





冷えると悪い
着替えてくれ…

—外に
出るから…

行かないで
下さい

ギョ…

着物が濡れて
しまったのは

あなたの
せいでは
ありません…





ん...

触れていて
下さい...

ん...

ん...
ん...

あ...

あっ

は...

ちゅ...

ちゅ...

ちゅ...

ちゅ...

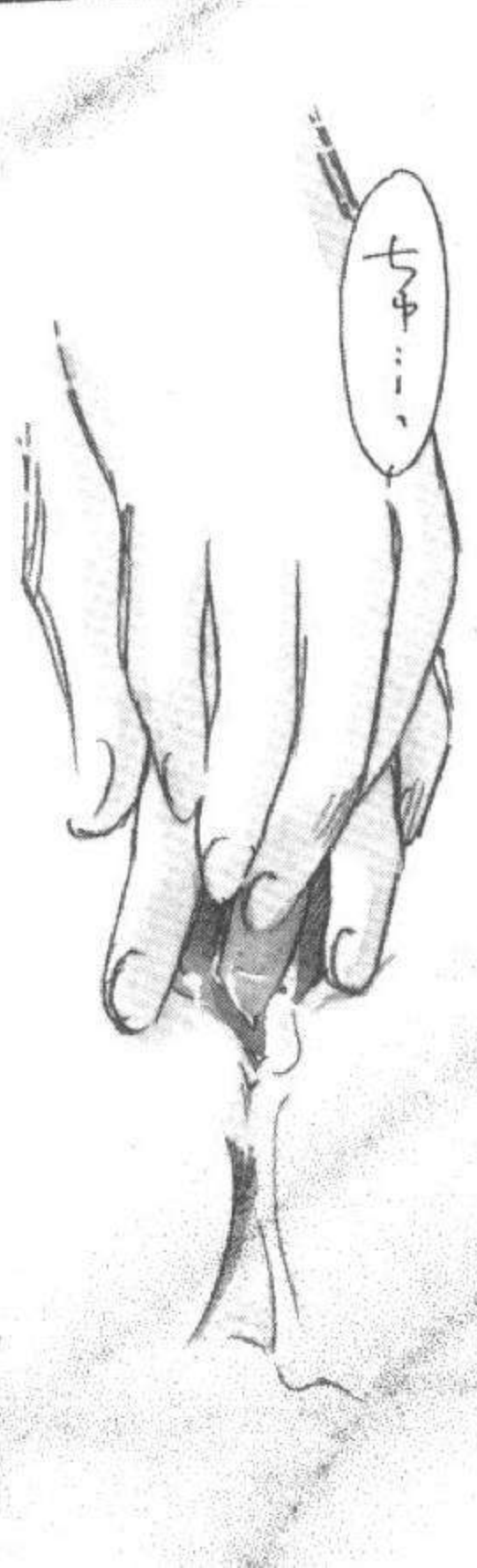
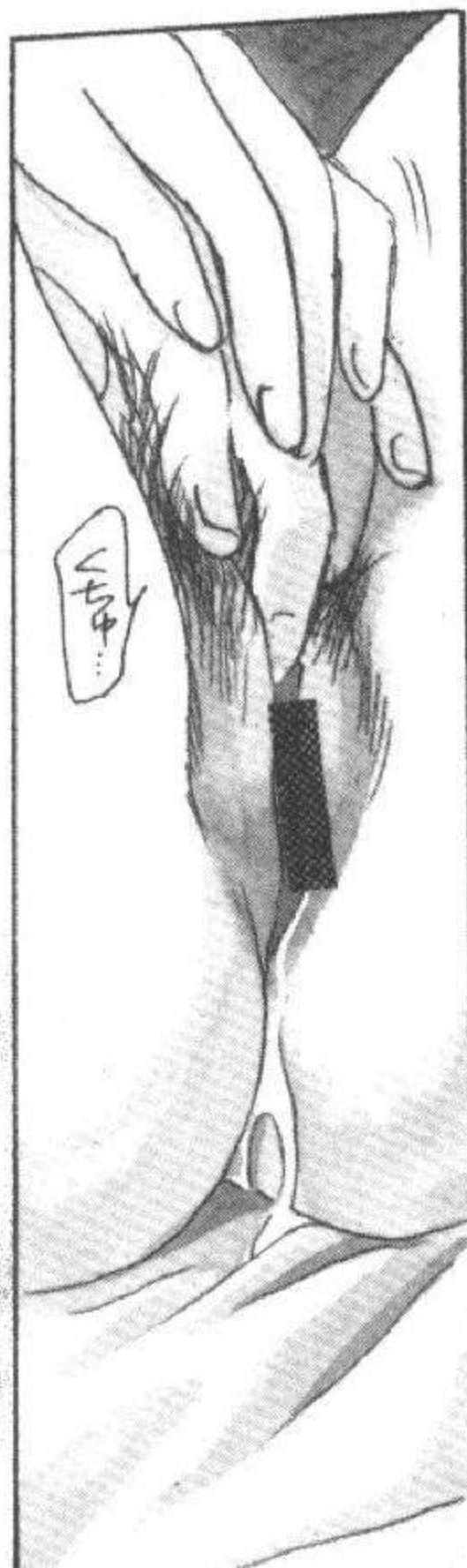
ちゅ...

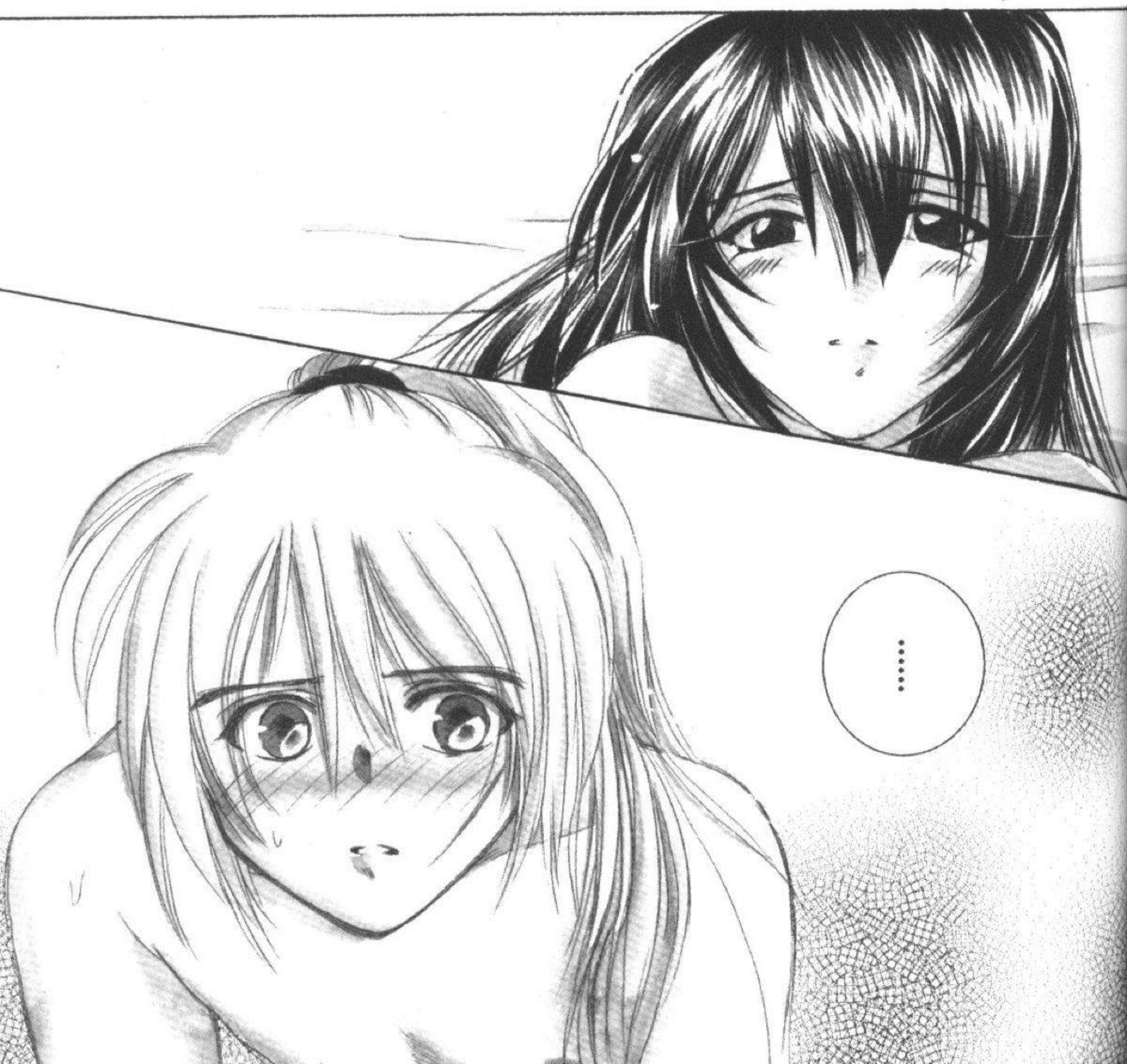














はあ...



...あ...



柔らかい...

...



—こんなに...





はあ

は……

む

んっ

ひ

んはあ

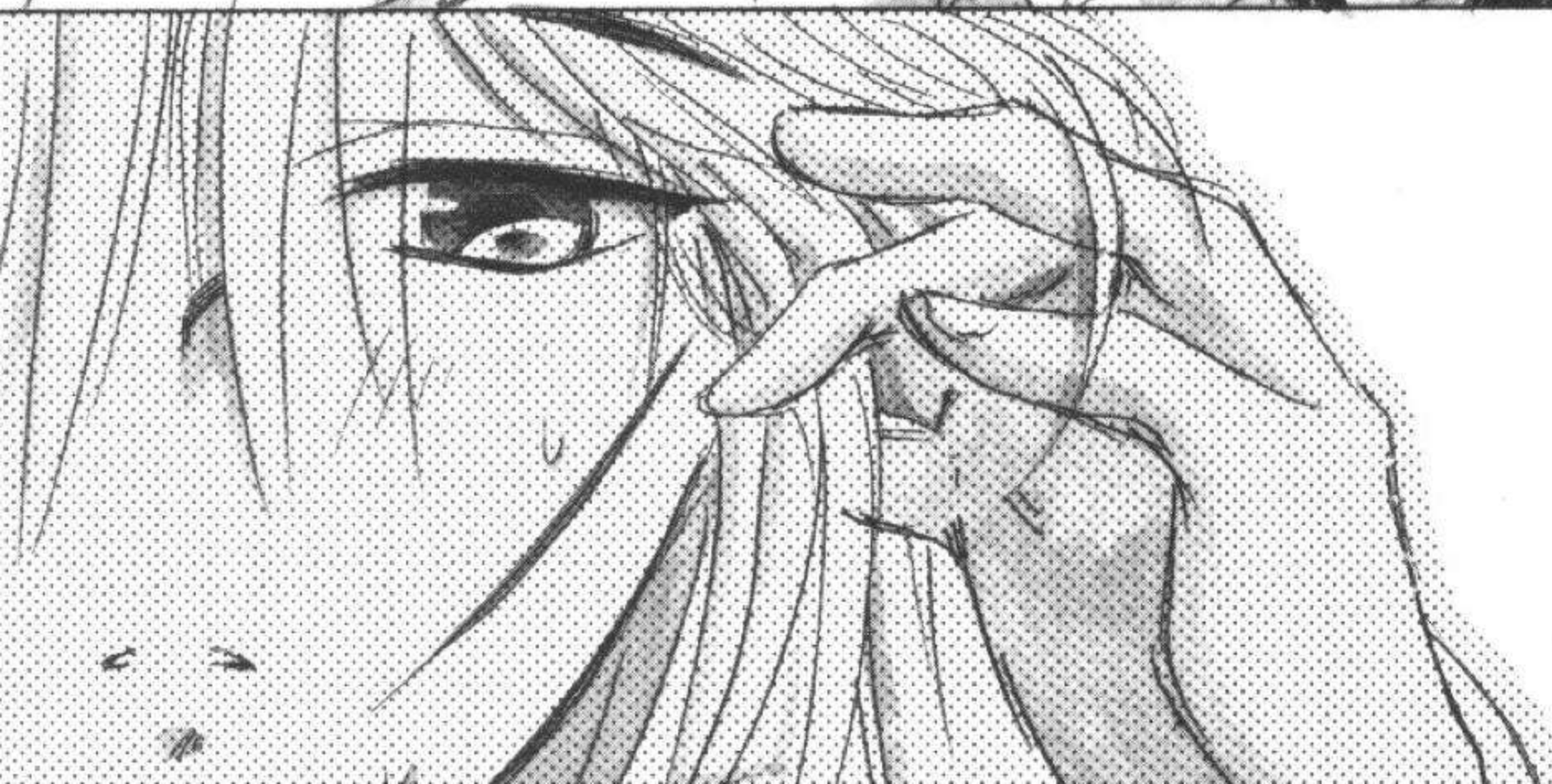
はあ

あ……

はあ

は

ん……





すまない…

—俺が
人斬りで…



すまない…



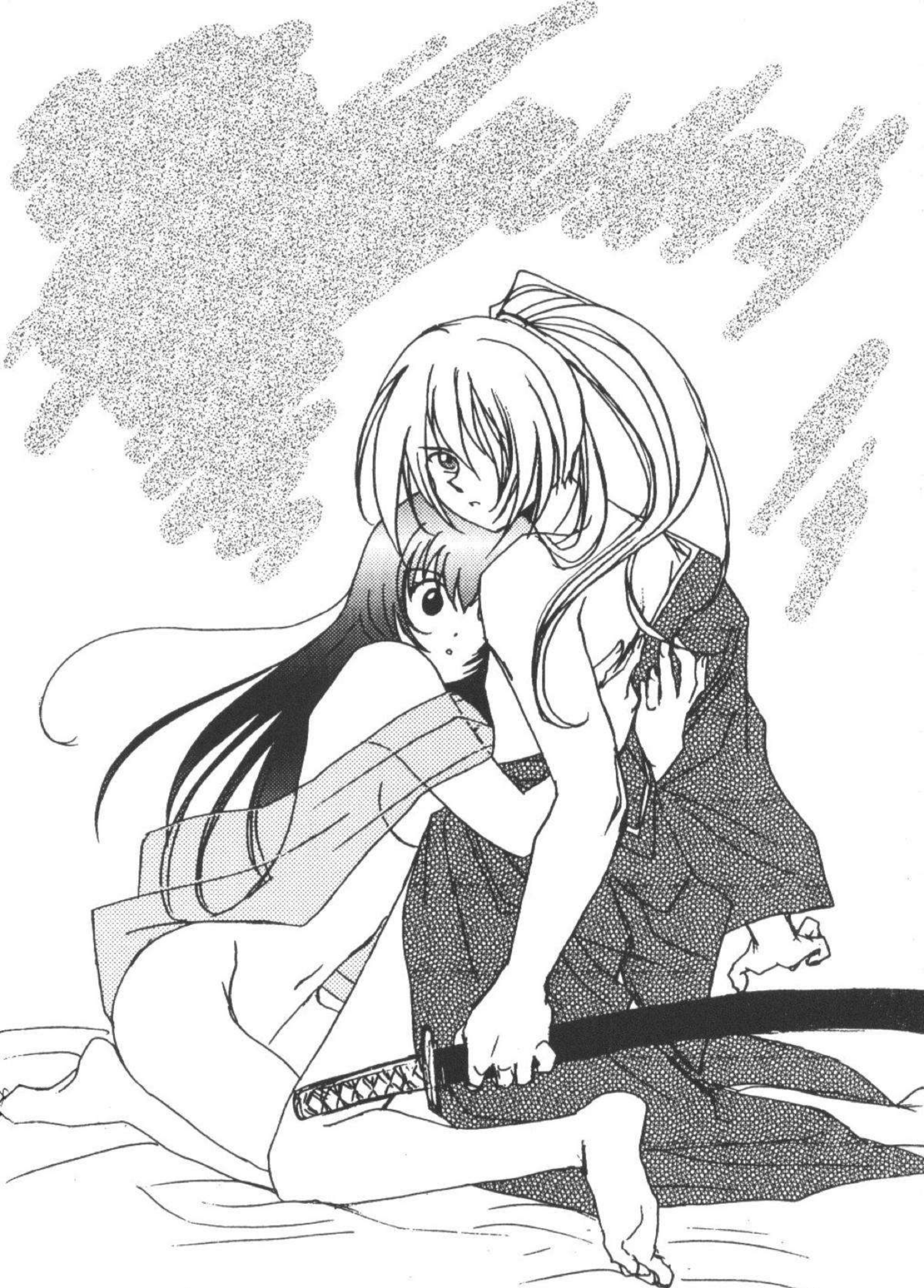
俺は…

それでも



俺は—

ゴッゴッ



華屋 VS やまぐち爆談! 下世話対談1999②

やま「されてしまうんじゃないよ。ホントにそうなんだよ！お前も見たやんか一緒に江戸の武家屋敷の天井裏で…華屋くしゃみするもんだからバレるかと思ったよ。巴は気付いたっぽかったけど、清里夢中だったから助かったよなー。ヤレヤレ。」

はな「ああッ!!折角わしが秘密にしておいたのに!!内緒にしとこうって言ったじゃないか!!清里君の名誉のために!! (←どんな名誉?) それはそうと原作は今度こそシリーズクライマックスっぽいですが。」

やま「言っとくけどクライマックスって最終回って意味じゃないぞ!富●●書店!! (笑) んー。やっぱ剣心が流浪人になった根底に関わるトコロがだからねー。もーこの前の薫とかたまらんかったー!! (246 幕) あの一コマ見て俺薫ファンになったもん!!遅まきながら。」

はな「じゃあキミも立派な剣×薫だね!! (何を今更) わしは、じわじわと逆転される縁が気の毒でう。力量では互角かもしれんがやはりトラウマを攻められるといかんですねえ。弱点バレバレな所がトホホです。」

やま「やったー!ありがとう (涙)。俺やっとムケました (謎)。縁の弱点かー。でも弱点ってチャームポイントみたいなもんだしな。アレがなきゃ縁の魅力半減。」

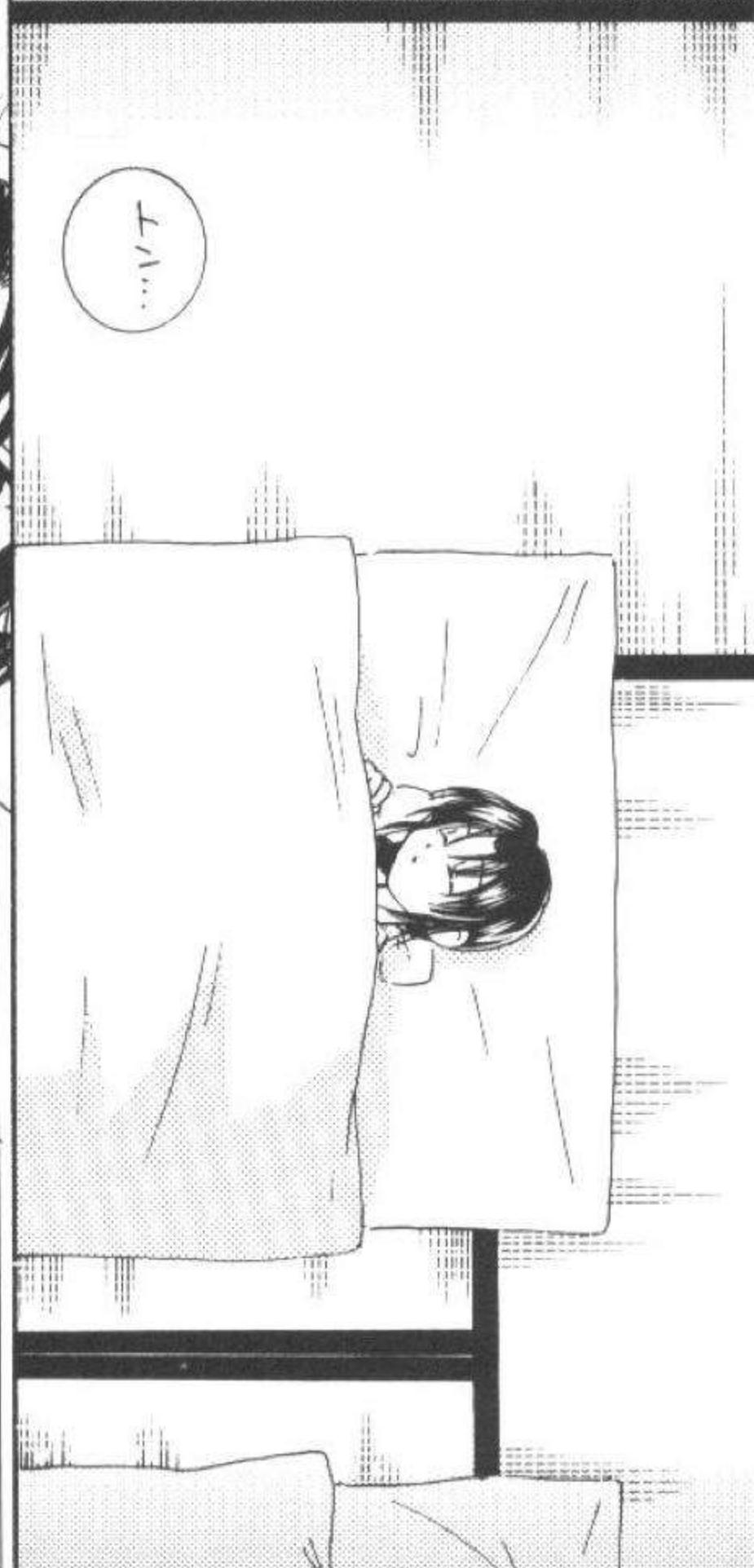
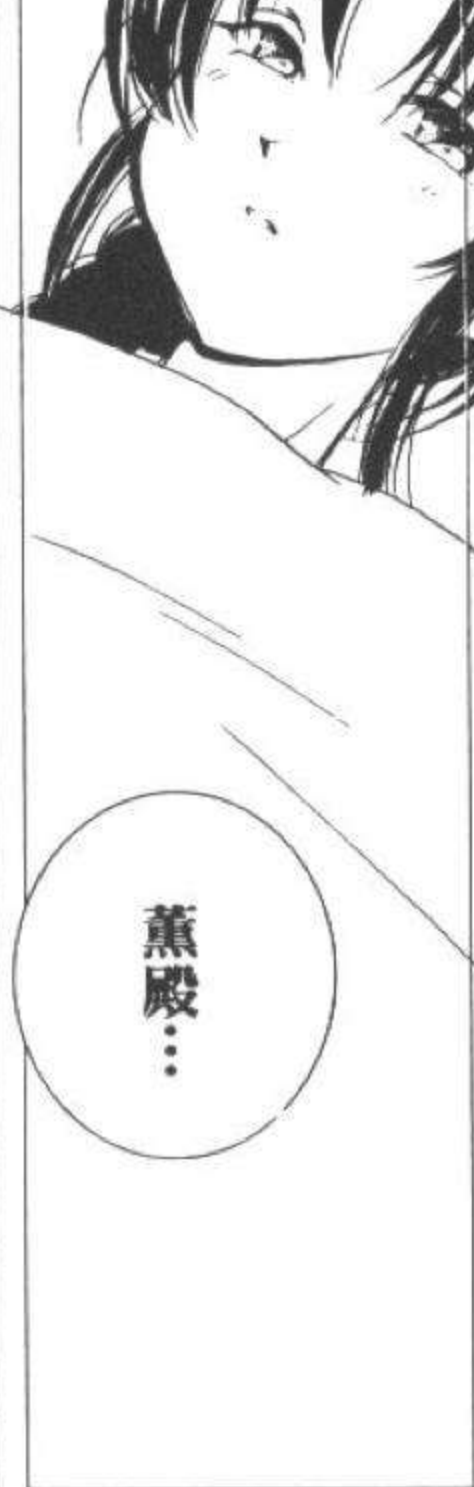
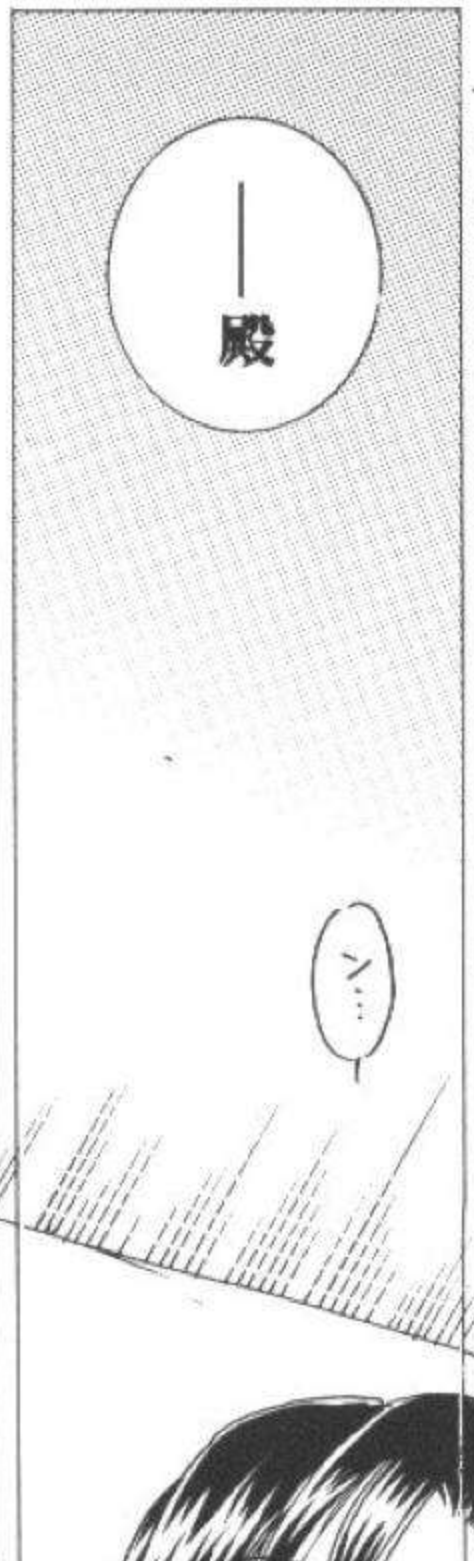
はな「てゆーか剣心打つ手なし (笑)。ネーサンの思い出も剣心への憎しみも薫へのほのかな変心 (恋じゃないよ) も持って美しく去って下さい。縁くん。」

やま「あー、わしね最近縁に生きてて欲しい派になりました。所謂大人になるのを拒んだ子供じゃん?ちゃんと大人になって欲しい。やっぱあれだよ、薫の身体を媒体にして巴の霊が憑依!『もういいのよ縁…』とかなんとか (笑)。俺の人生なんだったんだ姉サーン!」

はな「やめれ!!本当にそうだったらどうするよ!!てゆーかそれに近いことになりそうなのが、るる剣の魅力!!『わかったよ姉さん!!俺が間違ってたよ!!』 イヤーン。」

やま「とゆーわけで『るる剣』終わったら、わしどうやって生きていけばいいのか見当もつきませんが、連載の続く限りは『剣心バカー代』は健在だと思います。ここまでハマって…自分が怖いよ〜…剣心も和月先生も頑張れー!!」

Quiet sea





ううん

すまない
起こして
しまつて



どうかしたの？



やだ...



どうしたのよ
急だ...



ん...



ああ...



EJG...



夢を
見て...



—だから

あつ

だからじゃなくて
そういう意味じゃ

多分…薫殿が
思っているような
イミではなくて…

え…と

あでもやっぱり
そうなの…かも…

「ナカで
…ヤサ…

……



それで

どんな夢？

怒らないの？

そりゃ
イヤだけど…

怒っても
仕方ないし…

嫉妬
するケド

以前はこんな事
話してくれな
かったよね

私に
話してくれて

嬉しい



ギョ

あ

聞いて
欲しかったんだ...

.....

ちゅ



ねえ…

…夢の

事で
いけるか？

私…

まだ昔の事で
自分を責めて
いるの？

剣心の罪は
誰にも裁けない
と思う

この瞳に
映るものだけが
私の信じられる
真実だから…

それに…
あなたは誰の事も
恨んだり…憎んだり
していないもの…

剣心は
とがひと
罪人なんかじゃ
ないわ

少しのあいだ…

いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて



いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて
いじりて

安心する…

あ…



きゅ…

私も…





…
したい？



そーじゃ
ないわよ

み
ん

バカ

でも…

もう少し
強く抱き締めて…

ん…




後 戯

さて、清×巴・巴×抜……いかがだったであろう……（少々不安）。

清×巴に因しては自分の中のモノとは若干ズレがあるのだが、清里はあんなイメージである。呼び方は下の名前で呼ぶのが普通かなと思ひアレとなった。信じられない程恥ずかしい台詞も清里君にはよく似合う……と思う。描いてる……っらが恥ずかしい。

巴×抜は難産だった。当然抜刀奇は初体験だ（笑）。巴が着物の端とかんで嬌声を殺すシチュエーションは、元々華屋氏のこだわりネタであるが、気に入ったのでわしも拝借させて戴いた。互いが我を忘るるように獣の様に求め合うようなシーン……も描いてみたかったが、メンタル的には同様である。（ちなみに抜刀奇の告白後の話……って事で）

剣×董は赦えて濡れ場無しにしてみた。董の台詞は恋する女の詭弁……とも言うかもしれない。今回の巴×抜を描き終えて「やっぱり董の初モノネタは絶対もう一回やらねば！」と再認識した。いつかやるので、いつまでもお待ち頂きたい。



そして、ゲストとして寄稿していただいたZAK様・COMくん、
対談参加の華屋氏、アシストの岩石社長、ご協力有難うございま
した。

最後に和月先生すみません…。

それではまた別の誌面にてお会いしましょう。

やまぐらしんじ



1999年8月13日発行

■著者■
やまくちしんじ

■発行所■
やまくち楼
YAMAGUCHIROW

■連絡先■
〒819-8691
福岡西郵便局私書箱6号
やまくち楼

■e-mail■
shinji@algotlab.co.jp

■印刷所■

表紙
関西美術印刷株式会社

本文
くりえい社

※本文の無断複写・複製
及び十八才未満の購読
を禁止します。



SETSUEN
YAMAGUCHIROW PRESENTS
SHINJI YAMAGUCHI 1999
RUROUNI KENSHIN BOOKS
FOR ADULT